

倉敷市の「安全な学校給食」を求める署名

子どもは、これからの社会を担う主人公であり、地域の財産です。その心と身体の健やかな成長のためには「安全な食べもの」が欠かせません。「学校給食」は三食のうちの大切な一食であり、すべての子ども達にとって、成長や食育のためにとっても重要なものです。

しかし、日本はOECDに加盟する37か国の中で最も農薬使用量が多く、有機リン系・ネオニコチノイド系・グリホサートなど多くの農薬は、発がん性、発達障害を含め脳神経系への影響、そして次世代への影響があることが研究で明らかになっています。疑わしいものは使わない「予防原則」を基本として、EUなど世界各国ではこれらの農薬の使用禁止や規制強化に動いています。それに対して、日本は基準値を緩和しており、外国産小麦を使った学校給食のパンからはグリホサートが検出されています。

このような状況の中で、農薬の影響を特に受けやすい子どもは、可能な限り摂取しないことが重要です。倉敷市で提供される給食で、農薬を使わずに栽培されたお米や野菜を使い、小麦を外国産から国産(県産)小麦に切り替えることで、農薬の影響を低減させることができます。千葉県いすみ市や愛媛県今治市などでは、食の安全や地産地消を目指して、有機米や有機野菜、地元産小麦を給食に使用し、食材費が上がった分は自治体が負担しています。お金が地域で循環する仕組みにもなり、有機無農薬栽培をする農家が増え、誇りをもって持続可能な農業に取り組むことにつながっています。なお農林水産省は、有機農産物を学校給食に導入するための支援を始めています。

また、食の安全を確保し、地産地消をすすめるためには、大規模な給食センターでは有機無農薬・地元産の食材が使いにくくなり、生産者はもちろん、献立を考え調理してくれる人との関係も希薄になります。コスト削減や効率化も大切ですが、それが食の安全や食育の充実と引き換えであってはなりません。

倉敷市が食に関わる問題に真摯に向き合い、子ども達がこれから将来にわたって「安全な食べもの」を食べることができ、かつ地域が持続可能な農業に取り組むことができることを願い、以下のことを求めます。

【要望内容】

- ① 学校給食の米・野菜は、「有機無農薬農産物」(又はそれに準ずるもの)に段階的に切り替えること。
- ② 小麦は、岡山県産を中心とした国産を使用すること。
- ③ 自校方式調理場を基本として今後整備を進め、各校一人の栄養士を配置すること。
- ④ ①②によって給食費が上がる場合は、その差額を倉敷市が負担すること。

氏名	住所(県外は県から・県内は市から/同上・〃は不可)

<呼びかけ・集約団体>

裏面にも署名欄あり

集約〆切 11/30(月)

グリーンコープ生活協同組合おかやま 組合員事務局

署名はオンラインでも可能です

子どももわかる!6分動画♪

〒700-0973 岡山市北区下中野 311-113

TEL 086-805-2552 (組合員事務局 平日 9:30~15:00)



たねをまもる会おかやま taneokayama@gmail.com

